

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		曜日・時限	金曜日 3,5時限	
【授業の学習内容】							
好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。 平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。 道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。 ※担当教員実務経験: 英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】							
よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「現在形」疑問文 (yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	振り返り、期末試験
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験解説、次年度に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3,5時限
【授業の学習内容】 週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。 過去についての場所や出来事、過去の人について述べるができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。 食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。 ※担当教員実務経験：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	[Can / Can' t](能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to](陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやってはいけない理由を説明する。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	[so / really](強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り、期末試験
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験解説、次年度に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ (Career PlanningⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤岩 辰則
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエーター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 5時限
【授業の学習内容】							
キャリア教育の一環としてクラスメイト、担任とのコミュニケーションを図り社会人となる心構えやホスピタリティを理解し チームワークと社会の中で自己実現できるスキルを身につける。 進級時春の業界研修に向け、目標、姿勢、心構えなど準備を整え備える。 各種学内イベントを通じて、集団での動きや協力すること(チームワーク)を理解しクラスの一員としての役割を実践できる。							
【到達目標】							
卒業までのキャリアプランを理解し、セルフマネジメントを実践できるように取り組む。 チームワーク、チームマネジメントを理解、実践し集団の中での役割を果たすことが出来る。 社会人として必要な社会性、人間性を学び、身につける。 目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 自己実現のための目標設定をし実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	新入生オリエンの振り返り、前期オリエンテーション(4年間の流れと1年次キャリアプランニングの理解)、校内見学
2回目	1週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施、校外散策
3回目	2週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施、GWの過ごし方について
4回目	GWの振り返り、生活習慣について
5回目	学園祭について(積極性・チームワークなど協働、ホスピタリティを学ぶ)、中間試験について(単位、GPA、奨学金)
6回目	学園祭について(積極性・チームワークなど協働、ホスピタリティを学ぶ)
7回目	学園祭準備
8回目	中間試験の振り返り、学園祭準備
9回目	学園祭の振り返りとまとめ、前期前半の振り返りと目標設定や学習計画についての見直し
10回目	9週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施
11回目	10週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施
12回目	期末試験・補講・追再試について(試験規定、進級に向けての必要単位数など便覧記載内容の確認と理解)、夏休みの過ごし方について
13回目	夏休みの振り返り、海外プログラムについて
14回目	海外プログラムについて
15回目	期末試験の振り返り、前期の振り返り、後期授業について理解する
準備学習 時間外学習	特別講義に参加する 事前課題や各種レポートを書く
評価方法	・クラス(集団)への参加度や理解度:80% ・事前課題などの各種レポートの提出と記入内容:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
Hand-book of Life style オリジナル資料 学生便覧	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤岩 辰則
	(Career Planning I)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 4時限
【授業の学習内容】							
キャリア教育の一環としてクラスメイト、担任とのコミュニケーションを図り社会人となる心構えやホスピタリティを理解し チームワークと社会の中で自己実現できるスキルを身につける。 進級時春の業界研修に向け、目標、姿勢、心構えなど準備を整え備える。 各種学内イベントを通じて、集団での動きや協力すること(チームワーク)を理解しクラスの一員としての役割を実践できる。							
【到達目標】							
卒業までのキャリアプランを理解し、セルフマネジメントを実践できるように取り組む。 チームワーク、チームマネジメントを理解、実践し集団の中での役割を果たすことが出来る。 社会人として必要な社会性、人間性を学び、身につける。 目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 自己実現のための目標設定をし実践できる。							

授業計画・内容	
1回目	後期オリエンテーション(4年間の流れと1年次キャリアプランニングの理解)、後期授業について理解する
2回目	1週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施
3回目	2週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施
4回目	進級課題制作: テーマ設定、チーム決め、内容決め
5回目	進級課題制作: テーマ決定、制作、中間試験について
6回目	進級課題制作: 制作
7回目	進級課題制作: 制作
8回目	中間試験の振り返り、進級課題制作: 制作
9回目	進級課題制作: 制作、前期前半の振り返りと目標設定や学習計画についての見直し
10回目	9週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施、イベント運営: We are ECO 進級制作展準備
11回目	10週目を終えて授業の確認、授業の受け方(準備・ノートのとり方)、号令や掃除の仕方の確認と実施、イベント運営: We are ECO 進級制作展準備
12回目	期末試験・補講・追再試について(試験規定、進級に向けての必要単位数など便覧記載内容の確認と理解)、冬休みの過ごし方について
13回目	イベント運営: We are ECO 進級制作展準備
14回目	イベント運営: We are ECO 進級制作展準備
15回目	期末試験の振り返り、後期の振り返り、次年度カリキュラムについて理解する、イベント運営: We are ECO 進級制作展準備
準備学習 時間外学習	特別講義に参加する 事前課題や各種レポートを書く
評価方法	・クラス(集団)への参加度や理解度:80% ・事前課題などの各種レポートの提出と記入内容:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
Hand-book of Life style オリジナル資料 学生便覧	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skillup)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面			曜日・時限	木曜日 2時限
【授業の学習内容】 社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。 ※担当教員実務経験：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。							
【到達目標】 12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション（自己紹介）、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象（コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方）【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ロープレ：情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガーマネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト 対策
14回目	前期評価テスト 実施 試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト 解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	・試験：100%
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skillup)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面			曜日・時限	木曜日 2時限
【授業の学習内容】 社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。 ※担当教員実務経験：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。							
【到達目標】 12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ロープレ：ビジネス電話検定、電話対応ゲーム
2回目	社会的スキル 「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル 「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ：接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル 「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞 マナーの本質 「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド 「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド 「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ：ビジネスシュミレーションゲーム（敬語・電話対応・訪問・接客）
12回目	謝罪（謝る、お詫びする） マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	・試験：100%
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口恵美里
	(Computer Skills PracticeⅠ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※担当教員実務経験： 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する
評価方法	・小テスト:20% ・中間評価テスト:30% ・期末テスト:50% ※中間・期末の評価は提出作品(Word作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口恵美里
	(Computer Skills PracticeⅠ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※担当教員実務経験： 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作の確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	基礎生物 (Basic Animal Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西嶋武頼
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 2時限
【授業の学習内容】 動物業界の職業に携わるために必要な知識を学ぶ上で学んでおきたい生物学の基礎的な内容について、生物知識、動物医療、飼育現場、環境保全等の観点から解説します。							
【到達目標】 1. 生物の進化や分類、血液、公衆衛生、濃度計算など、動物に関する基礎知識や技能について、理解し、説明できる。 2. 動物の生体防御システムや分泌系など動物医療に関連する内容について理解し、説明できる。 3. 栄養素や遺伝・DNAと、それに関連するバイオテクノロジーなど、動物の飼育現場で必要とされる知識について理解し、説明できる。 4. 生物多様性の重要性や外来種・絶滅危惧種、地球環境の問題、保全に関する法律や条約について理解し、説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、生物知識①(進化・分類・光合成・食物連鎖)
2回目	生物知識②(動物の血液、公衆衛生、ズーノーシス)
3回目	生物知識③(濃度計算・希釈法)
4回目	動物医療①(医療器具・バイタルサイン)
5回目	動物医療②(生体防御システム)
6回目	動物医療③(外分泌・内分泌・代謝・運動器官)
7回目	中間試験
8回目	飼育現場①(五大栄養素と飼料効率)
9回目	飼育現場②(遺伝と繁殖)
10回目	飼育現場③(DNAと遺伝子組み換え・DNA鑑定、細胞培養・バイオテクノロジー)
11回目	環境保全①(生物多様性、外来種と絶滅危惧種)
12回目	環境保全②(地球環境問題)
13回目	環境保全③(エコロジー関連と関係法規)
14回目	期末試験
15回目	試験返却・まとめ
準備学習 時間外学習	講義内容に該当する教材のページ、授業資料の内容の復習(授業で扱った分野の内容について、背景・知識を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目指してください)。中間試験・期末試験に加えて、全10回授業内確認テストを行いますので、毎回の授業内容の復習を心掛けてください。興味関心に従い、授業内容以外の自主的な学習を推奨します。授業内容についてはもちろん、発展的内容に関する質問も歓迎します。
評価方法	・出席:30 % ・授業内確認テスト:20 % ・レポート:50 % ※その他、講義受講態度、講師の質問に対する回答意欲なども成績に加味します。
【使用教科書・教材・参考書】 ECO業界で役立つ基礎生物(株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Animals and Human)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 智太
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 2時限
【授業の学習内容】 民族や宗教、歴史等の観点から人と持佛の関りに関して考え、説明できるようになる。 ※担当教員実務経験：2009年から3年間、九州自然動物園アフリカンサファリに勤務。ふれあいゾーンにて小動物、中型・草食動物、家畜動物の飼育とふれあい業務および、サファリゾーンにて中型～大型草食動物、アメリカクロクマなどの飼育展示業務を経験。 2012年から10年間、到津の森公園に勤務。日本産動物(小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類)、大型草食動物、大型肉食動物、類人猿、霊長類、鳥類の飼育展示業務および、来園者向けの環境学習、体験型講座、企画展など学習イベントの企画・運営業務を経験。飼育1班(大型動物・特定動物担当)の班長業務を経験。							
【到達目標】 ・野生動物と人の関わりから始まり、動物の家畜化、愛玩・展示目的での動物飼育と変遷してきた歴史を理解する。 ・民族や宗教による動物観の違いを学び、動物を取り巻く欧米諸国と日本の思考体系の差を理解する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	シラバスを用いて授業計画の説明、調べ学習「イルカ問題について」
2回目	調べ学習「イルカ問題について」続き
3回目	調べ学習の発表、イルカ問題を取り巻く動物観のちがいについて解説
4回目	【人と動物の関わり】①狩猟採集生活と牧畜のはじまり
5回目	【人と動物の関わり】②関りの多様化(愛玩動物・アニマルセラピー・作業犬)
6回目	グループワーク「飼育動物の安楽殺の是非」
7回目	調べ学習「動物愛護と動物福祉のちがい」
8回目	調べ学習の発表
9回目	【動物観のちがい】①愛護と福祉
10回目	【動物観のちがい】②民族の歴史と風土
11回目	【動物観のちがい】③宗教
12回目	グループワーク「海外から寄せられる批判にどう対処するか」
13回目	学習内容の振り返り
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	試験返却、学習内容の復習
準備学習 時間外学習	【使用する教科書】 ・アニマルヒストリー 【その他参考資料】 ・日本畜産学会若手企画委員会HP(主に「読み物」のページに国内の家畜動物研究者による研究内容紹介あり) ・「動物の家畜化」や「宗教観と動物観」についての書籍など
評価方法	・出席率:30% ・授業態度:20% ・評価試験:50%
【使用教科書・教材・参考書】 上記準備学習時間外学習欄に記載の資料に加え、講師が飼育員在職中に撮影した写真および映像資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
	(Animal Health Care)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		曜日・時限	週一回のオンデマンド配信	
【授業の学習内容】							
動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）							
【到達目標】							
①健康チェックを行うときの具体的な方法と判断基準について理解できる、予防の内容と注意点について理解できる。							
②健康チェックを動物に行うことができる。							
③動物の変化に気づくことができる、動物を病気にさせない環境をつくり、病気にさせないための対策を立てることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の目的、進め方
2回目	動物園動物の健康管理の特徴①
3回目	動物園動物の健康管理の特徴②
4回目	動物園動物の健康管理の特徴③
5回目	動物園動物の健康管理の特徴④
6回目	動物園動物の健康管理の特徴⑤
7回目	水族館動物の健康管理について①
8回目	水族館動物の健康管理について②
9回目	ペット系動物の健康管理について①
10回目	ペット系動物の健康管理について②
11回目	ペット系動物の健康管理について③
12回目	産業動物の健康管理について①
13回目	産業動物の健康管理について②
14回目	期末評価試験、振り返り
15回目	期末評価試験の返却及び解説 これまでの振り返り
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	・定期試験の結果80% ・レポート提出：20%
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶教育科学研究所「イラストで見る動物の飼養管理」 参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Anatomy and Physiology of Animals)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高田 真理子
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 4時限
【授業の学習内容】 動物の骨格や外皮系、各臓器の正常な状態(形・位置・色・機能など)について学ぶ。体のしくみを理解することで問題と対策方法がわかる。 教科書には、その部分に多い病気についても記載があるので、正常な機能と比較をしながら解説をしていく。 ※担当教員実務経験:家畜保健衛生所にて約2年、国営海の中道海浜公園にて約30年、獣医師として従事。							
【到達目標】 ①各臓器の正常な形・位置・色・機能などを理解し、説明することができる。 ②各臓器の正常(健康)時と異常(病気)時の違いを比較し、説明することができる。 ③現場で動物の健康チェックを行う時に、異常に気づくことができる 病気の動物に対するケアに活用することができることを目標とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方、骨格について①
2回目	骨格について② 筋肉について①
3回目	筋肉について② 外皮について
4回目	消化器について①
5回目	消化器について②
6回目	消化器について③
7回目	泌尿器について
8回目	呼吸器について
9回目	循環器について①
10回目	循環器について②
11回目	感覚器について
12回目	神経系について
13回目	動物の体のまとめ
14回目	期末評価試験、振り返り
15回目	期末評価試験の返却及び解説 これまでの振り返り
準備学習 時間外学習	授業内容はノートにまとめ知識習得に努める。 授業後には教科書やノートを見返し復習すること。
評価方法	筆記試験70% 授業内評価(課題への取り組み、レポートの等)30%
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶教育科学研究所「イラストで見る動物の体のしくみ」	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	次世代のための環境教育(SDGs)	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
	Environmental Study for the Next Generation(SDGs)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		(2)	曜日・時限	水曜日 5時限
【授業の学習内容】							
エス・ディー・ジーズ(SDGs)は、私たちが地球上で生きていくための課題、たくさんのハードルがあります。世界人口(80億人)と穀物・肉類の需給、資源の確保、気象など一国では解決できません。前期はSDGsの目標と各国の様子、後期はSDGsの活動(民間のSDGs経営)を調べましょう。安全に生命を維持するためには住む場所、健康、働ける公正な経済社会が必要。言葉や法律、科学の学習も必須。世界の協力が大切です(国際法、IMFなどの国際機関)。自然環境、湿地や湖沼・森林・熱帯雨林・農地・海洋などを大事にし、熱や水の安定した循環と生物多様性が土台です。温室効果ガス、廃プラ、地震や山火事等の災害、また国際紛争、エネルギー・食糧価格、貧困・飢餓など社会的弱者への対策も。多くの脆弱さ(ぜいじゃくさ:もろさ)を乗り越えるために193の国々が(国連で)17個の目標を宣言・約束しました。それがSDGs「誰一人取り残さない持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」。授業では文明を3千年遡って考えましょう。暦を作り農業や産業を興しました。一方大量消費、市場取引による富のかたよりも大きくなりました。 ※担当教員実務経歴:大学、日本SDGs協会で若者や社会人のSDGs活動の支援に従事							
【到達目標】							
学んだSDGsの知識、理解をノートにまとめ、整理し、自身のSDGs計画として発表できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	4/17対面授業 シラバスの説明。基本解説:SDGsの成り立ちと目的。取り組み方(SDGsコンパス、バックキャストの方法)を紹介。
2回目	4/24オンライン 歴史とSDGs:博多湾、板付遺跡等から学ぶ3千年前の古代文明と今日までの人間の暮らし。太陽を中心とした暦と農耕。世界の文明
3回目	5/8対面授業[校外演習:博多湾見学・調査] 九州の文化とSDGs:歴史と役割。自然環境・立地、海の状態。開かれた港湾と交通、都市の発達
4回目	5/15オンライン 生活三面とSDGs:「環境(太陽、水、穀物、土と生き物)」「社会(国家と地方、制度、納税、サービス)」「経済(営業の自由、労働、生産と消費)」
5回目	5/22オンライン ①博多湾調査で得た知見・情報の整理②インターネットで統計データ・数値を収集。貨物、旅客航路・運輸、漁港、観光事業実績
6回目	5/29対面授業 ①博多湾・板付遺跡の小レポート作成:分かったこと、気づいたこと。②レポートの書き方:サンプル指導、項目、記録、章立て、考察
7回目	6/5オンライン 〈中間テスト〉 レポート完成、発表、提出。〈九州の歴史、地形、交流、サステナブルな文明に触れる〉
8回目	6/19オンライン 世界とSDGs: 世界の国々の比較(データランキング)文化、経済規模。GDP、人口、石油埋蔵量、貿易量、ジェンダーギャップ等
9回目	6/26オンライン 世界の国々 ①アフリカ:エジプト共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、コートジボワール、スーダン 産業、歴史、都市、政治、文化
10回目	7/3オンライン ②アフリカ:ケニア共和国、エチオピア連邦、中央アフリカ共和国、ルワンダ共和国、コンゴ共和国
11回目	7/10オンライン SDGsゴールの学習:G1.貧困をなくそう G2.飢餓ゼロ:食料安全保障・農業促進 G3.すべての人に健康と福祉を
12回目	7/17オンライン ③中東(西アジア):シリア共和国、イスラエル国、パレスチナ自治政府、サウジアラビア王国、イラク王国、イラン・イスラーム共和国、アフガニスタン共和国
13回目	8/28オンライン ④アジア・オセアニア・南アメリカ:フィリピン等、オーストラリア、ペネゼイラ共和国、コロンビア、チリ、アルゼンチン、パラグアイ共和国、ブラジル共和国。パナマ、ハイチ
14回目	9/4オンライン 期末テスト 8-13回で得た知識をもとにレポートを作成する。(その国の問題点。要点の整理と気づき、意見を述べる)
15回目	9/11対面授業 まとめ レポート提出。学習内容から関心・興味を持ったこと、得た知識、現実の世の中を振り返る。ポイントと理解。
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート):60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力):20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など):20%
【使用教材・参考書】 「60分でわかる!SDGs超入門」ハワード 著 功能聡子・佐藤寛監修 技術評論社刊、「世界の国々」朝日新聞出版編著、「これでわかる!SDGs」(株)大創産業編集発行 「地球環境問題がよくわかる本」浦野敏平他著オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育(SDGs)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
	Environmental Study for the Next Generation(SDGs)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	水曜日 5時限
【授業の学習内容】							
後期は、SDGsのビジネスチャンス(機会)や具体的な活動例をみていき、実践を考えましょう。2015年国連決議「2030アジェンダ」には、人権や持続的経済成長について述べられています。実際にSDGsを行うのは営利企業や学校、病院、自治体など公益的セクター、または家庭や個人です。これらが長期的な視点で、収益を求めながらも同時に社会的課題を事業に取り入れ、環境負荷(Co2排出など)を減らす工夫をしたり、働き方を明るくフェアにする努力をすることでSDGsの各目標に近づこうとします。また経済産業省など国の政策(EVへのグリーン補助金等)のチェックなども必要です。SDGsは「人は生まれながらにして人権をもち、平等に幸福を追求する権利を付与されている」という考え方に立って「将来の世代へ続く豊かさ、低炭素社会の適度な経済成長」を残します。具体例として地域再生や町おこし、産業のゼロカーボン活動の事例等を調べましょう。長期的な経済成長を目指すサステナブル経営と資本市場の仕組み(お金の出資、ESG投資、コーポレートガバナンス、責任投資原則PRIなど)にも触れましょう。 ※担当教員実務経験:日本SDGs協会理事、元大阪経済大学経営学部教授							
【到達目標】							
学んだSDGsの知識、理解をノートにまとめ、整理し、自身のSDGs計画として発表できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	9/25対面授業 予定説明 国連2030アジェンダとSDGs ゴール8 経済成長と働きがい。事例:F県M製作所 地元材料でチョコレート製造
2回目	10/2オンライン 経済とSDGs: 長期的成長の経営 PRI責任投資原則、ESG投資 G9 産業育成・技術イノベーション 石川県K工業 中古エンジン再生
3回目	10/9オンライン 経済とSDGs: G9 産業育成・技術イノベーション サプライチェーン全体の脱Co2排出 例:F協同組合、A金属加工のCo2見える化
4回目	10/16オンライン 経済とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:沖縄県K協同組合 離島の産業振興、過疎防止、三重県I町野遊びプロジェクト
5回目	10/23オンライン 経営とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:徳島県A株式会社 空き家のサテライトオフィス誘致
6回目	10/30オンライン 経営とSDGs: G4. 質の高い教育確保・生涯学習 例:大阪府Y福祉法人 アート教育による社会参加
7回目	11/6 オンライン 小レポート作成 前半のSDG経営の例から得たことをまとめる。グループ討議。経済のゴール(1, 2, 8, 9, 17)の確認
8回目	11/20対面授業 後期後半の研究課題について 最終レポートの「わたしのSDGs経営提案」を準備。教育、人権、平和と公正な制度のゴール(4, 5, 16)」などを確認
9回目	11/27オンライン 企業経営とSDGs: 5.ジェンダー平等の達成・女性と女兒の能力強化、16.持続可能な開発のための平和促進、法制度、コンプライアンス・エクスプレイン
10回目	12/4 対面授業 SDGs経営:コーポレートガバナンスコード;短期利益から長期利益へ。競争と市場評価。CSR(社会的責任)CSV(経済・社会の共通価値創造)
11回目	12/11オンライン 国際協定とSDGs: ESG投資,環境省GHGプラットフォーム COP(コッパ)21・IPCC(気候変動枠組) UNDP(国連開発機構) CDP(英国評価)
12回目	12/18オンライン 研究レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。グループコミュニケーション。
13回目	1/15 オンライン レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。プレゼンテーションの練習、ほかの人とコミュニケーションする。
14回目	1/22オンライン 期末テスト 研究レポート完成、質疑、意見交換 できた人はレポート提出
15回目	1/29対面授業 後期まとめ 発表 レポート提出
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート)60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力)20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など)20%
【使用教材・参考書】	
「国際連合の基礎知識」国際連合広報局 関西学院大学出版会、「FACT FULNESS」ハンス・ロスリング 日経BP、「カーボンニュートラルをめぐる世界の潮流 政策・マネー、コーポレートガバナンス」白井さゆり 文真堂、「図解でわかるカーボンサイクル」エネルギー総合工学研究所 技評社、「SDGs思考」田瀬和夫 impress、「責任ある投資」水口 剛 岩波書店、「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平他 オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	生物分類学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井上 龍介
	(Animal Taxonomy & Research)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	火曜日 2時限
【授業の学習内容】							
動植物の生態・形態を通して生物分類の技術と学び、調査の方法と分析・結果などの基礎も学びます。							
※担当教員実務経験： 動物園での20年間の動植物管理業務責任者の経験を有す。(ウサギ、ポニー等のふれあい動物、霊長類、有袋類、フラミンゴ、大型インコなどの繁殖経験を有する。)							
【到達目標】							
動物、植物全般広範囲に知識の集積に努め1級上の検定合格を目指します。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	講師紹介、授業計画、学習方法説明
2回目	分類検定テキスト p15
3回目	分類検定テキスト p30
4回目	分類検定テキスト p45
5回目	分類検定テキスト p60
6回目	分類検定テキスト p75
7回目	中間評価試験
8回目	分類検定テキスト p90
9回目	分類検定テキスト p15
10回目	分類検定テキスト p30
11回目	分類検定テキスト p45
12回目	分類検定テキスト p60
13回目	分類検定テキスト p75
14回目	期末評価試験
15回目	分類検定テキスト p90
準備学習 時間外学習	・春に実を着ける植物調べ ・夏に開花する植物調べ
評価方法	課題レポート(30点)筆記試験(70点)の総合評価
【使用教科書・教材・参考書】 生物分類技能検定3・4級テキスト	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	生物分類学	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	井上 龍介
	(Animal Taxonomy & Research)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	火曜日 4時限
【授業の学習内容】							
動物、植物の詳細な観察や学習をとおして生き物だけでなく環境についても知識を習得できる							
※担当教員実務経験： 動物園での20年間の動植物管理業務責任者の経験を有す。(ウサギ、ポニー等のふれあい動物、霊長類、有袋類、フラミンゴ、大型インコなどの繁殖経験を有する。)							
【到達目標】							
動物、植物全般広範囲に知識の集積に努め1級上の検定合格を目指します。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	分類検定テキスト p.0
2回目	分類検定テキスト p.15
3回目	分類検定テキスト p.30
4回目	分類検定テキスト p.45
5回目	分類検定テキスト p.60
6回目	分類検定テキスト p.75
7回目	中間評価試験
8回目	分類検定テキスト p.90
9回目	分類検定テキスト p.15
10回目	分類検定テキスト p.30
11回目	分類検定テキスト p.45
12回目	分類検定テキスト p.60
13回目	分類検定テキスト p.75
14回目	期末評価試験
15回目	分類検定テキスト p.90
準備学習 時間外学習	・秋に実を着ける植物調べ ・冬に開花する植物調べ
評価方法	課題レポート(30点)筆記試験(70点)の総合評価
【使用教科書・教材・参考書】	
生物分類技能検定3・4級テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩田陽子
	(Marine Mammal)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 4時限
【授業の学習内容】							
鯨類・鯨脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深める。 ※担当教員実務経験：元株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフ(海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事)。							
【到達目標】							
分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	海洋哺乳類とは？
2回目	鯨類 進化・分類
3回目	鯨類の体の仕組み①
4回目	鯨類の体の仕組み②
5回目	鯨類の体の仕組み③
6回目	鯨類の体の仕組み④
7回目	鯨類の体の仕組み⑤
8回目	鯨類の体の仕組み⑥
9回目	鯨脚類 進化・分類
10回目	鯨脚類 体の仕組み①
11回目	鯨脚類 体の仕組み②
12回目	鯨脚類 体の仕組み③
13回目	鯨脚類 体の仕組み④
14回目	評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめる。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験 80% 授業姿勢 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	陸上動物	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 智太
	(Biology of Terrestrial Animals)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 4時限
【授業の学習内容】 陸上動物の分類・生態・形態を学ぶとともに、それらを飼育管理する上で必要な知識を学びます。 ※担当教員実務経験：2009年から3年間、九州自然動物園アフリカサファリに勤務。ふれあいゾーンにて小動物、中型・草食動物、家畜動物の飼育とふれあい業務および、サファリゾーンにて中型～大型草食動物、アメリカクロクマなどの飼育展示業務を経験。 2012年から10年間、到津の森公園に勤務。日本産動物(小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類)、大型草食動物、大型肉食動物、類人猿、霊長類、鳥類の飼育展示業務および、来園者向けの環境学習、体験型講座、企画展など学習イベントの企画・運営業務を経験。飼育1班(大型動物・特定動物担当)の班長業務を経験。							
【到達目標】 ・陸上動物の基本的な分類や生態を学ぶことで、動物種ごとの違いを体系的に理解し、動物について学習するための基礎知識を習得する。 ・分類を学ぶことで、「哺乳類」と「霊長類」などの「類」が示すグループ分けの違いを理解する。(哺乳類は「哺乳綱」で霊長類は「霊長目」である、など)							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	シラバスを用いて授業計画の説明、自己紹介、短時間の個人面談(将来の目標や授業で学びたい内容など聞き取り)
2回目	【分類】①概論part1(種名と学名、二命式命名法、分類の7階級)
3回目	【分類】②概論part2(「種」「亜種」「基亜種」について)
4回目	【分類】③陸上動物の分類(哺乳綱、鳥綱、爬虫綱、両生綱それぞれの特徴と違い)
5回目	【生態】①概論part1 生態に配慮した飼育環境、生態用語について
6回目	【生態】②概論part2 本能と学習、周期活動、進化に基づく諸現象
7回目	【生態】③各論part1 肉食動物(生物的特徴、食肉目内の分類、生態、飼料など)
8回目	グループワーク「肉食動物の生態に配慮した飼育方法を考える」、動物園での事例解説
9回目	【生態】④各論part2 草食動物(生物的特徴、目ごとの分類、各目内の分類、生態、飼料など)
10回目	グループワーク「草食動物の生態に配慮した飼育方法を考える」、動物園での事例解説
11回目	【生態】⑤各論part3 雑食動物(生物的特徴、目ごとの分類、各目内の分類、生態、飼料など)
12回目	グループワーク「雑食動物の生態に配慮した飼育方法を考える」、動物園での事例解説
13回目	学習内容の振り返り
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	試験返却、学習内容の復習
準備学習 時間外学習	【使用する教科書】 ・飼育ハンドブック①～⑤ 【その他参考資料】 ・動物園のHP(飼育員による研究発表や飼育管理の工夫に関するブログなど) ・各種動物研究団体のHP(エンリッチメント:SHAPE-japan、霊長類:京都大学霊長類研究所、類人猿:SAGA(大型類人猿を支援する集い)など掲載資料) ・動物園および動物研究団体公式の配信動画など
評価方法	出席率:30% 授業態度:20% 評価試験:50%
【使用教科書・教材・参考書】 上記準備学習時間外学習欄に記載の資料に加え、講師が飼育員在職中に撮影した写真および映像資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	陸上動物	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 智太
	(Biology of Terrestrial Animals)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 3時限
【授業の学習内容】 陸上動物の分類・生態・形態を学ぶとともに、それらを飼育管理する上で必要な知識を学びます。 ※担当教員実務経験：2009年から3年間、九州自然動物園アフリカンサファリに勤務。ふれあいゾーンにて小動物、中型・草食動物、家畜動物の飼育とふれあい業務および、サファリゾーンにて中型～大型草食動物、アメリカクロクマなどの飼育展示業務を経験。 2012年から10年間、到津の森公園に勤務。日本産動物(小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類)、大型草食動物、大型肉食動物、類人猿、霊長類、鳥類の飼育展示業務および、来園者向けの環境学習、体験型講座、企画展など学習イベントの企画・運営業務を経験。飼育1班(大型動物・特定動物担当)の班長業務を経験。							
【到達目標】 ・陸上動物の基本的な分類や生態を学ぶことで、動物種ごとの違いを体系的に理解し、動物について学習するための基礎知識を習得する。 ・分類を学ぶことで、「哺乳類」と「霊長類」などの「類」が示すグループ分けの違いを理解する。(哺乳類は「哺乳綱」で霊長類は「霊長目」である、など)							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	シラバスを用いて授業計画の説明、後期授業中に作成する「飼育ガイドライン」について説明
2回目	【生態】⑥各論part4 鳥類(生物的特徴、分類、生態、飼料など)
3回目	グループワーク「鳥類の生態に配慮した飼育方法を考える」、動物園での事例解説
4回目	【生態】⑦各論part5 爬虫類(生物的特徴、分類、生態、飼料など)
5回目	グループワーク「爬虫類の生態に配慮した飼育方法を考える」、動物園での事例解説
6回目	【飼育管理】①中毒を起こす可能性のあるエサ
7回目	【飼育管理】②陸上動物のハズバンダリートレーニング総論(トレーニングの基礎知識を動物園での事例を映像で解説)
8回目	調べ学習「飼育ガイドライン作成」開始
9回目	調べ学習「飼育ガイドライン作成」作業
10回目	調べ学習「飼育ガイドライン作成」発表
11回目	【飼育管理】③飼育動物の引っ越し
12回目	【飼育管理】④霊長類の人工哺育
13回目	学習内容の振り返り
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	試験返却、学習内容の復習
準備学習 時間外学習	【使用する教科書】 ・飼育ハンドブック①～⑤ 【その他参考資料】 ・動物園のHP(飼育員による研究発表や飼育管理の工夫に関するブログなど) ・各種動物研究団体のHP(エンリッチメント:SHAPE-japan、霊長類:京都大学霊長類研究所、類人猿:SAGA(大型類人猿を支援する集い)など掲載資料) ・動物園および動物研究団体公式の配信動画など
評価方法	出席率:30% 授業態度:20% 評価試験:50%
【使用教科書・教材・参考書】 上記準備学習時間外学習欄に記載の資料に加え、講師が飼育員在職中に撮影した写真および映像資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鶴澤拓哉
	(Biology of Aquatic Animals)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
	専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法		対面授業	(2)	曜日・時限
【授業の学習内容】							
○水生生物の分類・生態・形態を学ぶとともに、それらを飼育管理する上で必要な知識を学ぶ。 ○淡水域の水辺に生息する魚類や水生昆虫のほか、水辺に生息する爬虫類・両生類の形態・生態・飼育管理について学ぶ。 ※担当教員実務経験：2019年～現在「北九州市ほたる館」に勤務。2022年～同館統括マネージャー、2024年～同館館長。カエルやカメなど日本産小動物の飼育展示調査、イベント企画、広報に従事。自然環境の保全に関する活動を支援し、ホテルをはじめとした水辺の生き物やその生息環境について学習支援・調査研究を行う。							
【到達目標】							
○水生生物の分類で界・門・綱・目・科・属・種の意味とそこに属する生物名・特徴がわかる。 ○水辺に生息する爬虫類・両生類・淡水魚類・水生昆虫の体の名称を答えることができ、その生物の生活史を答えることができる。 ○水辺に生息する爬虫類・両生類・淡水魚類・水生昆虫の飼育環境について考察し、展示レイアウトを立案・作成をすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	1年間の授業の進め方。淡水・汽水・海水の違いについて。河川と池沼の違いについて。分類について。同定実力テスト。
2回目	淡水魚類の分類・生活史・種について(グループ別の形態、代表種、日本に分布している種、生活域の違いについて知る)
3回目	淡水魚類の生体の観察・同定法について(実際に生体を観察し、形態の違いや同定法を知る【演習：マリンワールド海の中道】)
4回目	淡水魚類の飼育環境づくりを考える(飼育管理、展示レイアウトを知り考える【演習：マリンワールド海の中道】)
5回目	水生昆虫類の分類・生活史・種について(グループ別の形態、代表種、日本に分布している種、生活域の違いについて知る)
6回目	ホテルの観察について(ホテルの生体を観察し、国産ホテル代表種3種の違いを知る)
7回目	水生昆虫類の採集方法・生体の観察・同定法について(実際に生体を採集・観察し、形態の違いや同定法を知る【演習：北九州市立山田緑地】)
8回目	水生昆虫類の生息環境について(生息地を取り巻く環境による生息環境の違いを知る【演習：北九州市ほたる館】)
9回目	両生類の分類・生活史・種について(グループ別の形態、代表種、日本に分布している種、生活域の違いについて知る)
10回目	両生類の生体の観察・同定法について(実際に生体を観察し、形態の違いや同定法を知る)
11回目	水生爬虫類の分類・生活史・種について(グループ別の形態、代表種、日本に分布している種、生活域の違いについて知る)
12回目	水生爬虫類の生体の観察・同定法について(実際に生体を観察し、形態の違いや同定法を知る)
13回目	前期授業の振り返り。資料整理。質問回答。
14回目	期末試験
15回目	期末試験振り返り。同定実力テスト振り返り。
準備学習 時間外学習	予習復習 その動物群の図鑑を読んで特徴・種を理解しておく 様々な動物展示施設における水生生物の飼育・展示について調べ知っておく
評価方法	出席日数：10% 授業態度・理解度：10% 評価試験結果：80%
【使用教科書・教材・参考書】 ネイチャーガイド 日本の水生昆虫(文一総合出版) 山溪ハンディ図鑑 増補改訂 日本の淡水魚(山と溪谷社) 野外観察のための日本産爬虫類図鑑 第3版(株式会社 緑書房) 野外観察のための日本産両生類図鑑 第3版(株式会社 緑書房)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物 (Biology of Aquatic Animals)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	淵上 信好
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 3時限
【授業の学習内容】 海産水生生物(魚類・無脊椎動物)の生体および標本を使用。基礎知識講義・スケッチ・解剖からの展開を指導。 ※担当教員実務経験: 国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導)⇒1995～継続中 NPO法人直方川づくりの会(河川環境教育・ピオトープ管理)⇒2006～継続中							
【到達目標】 1. その生物のDNAが作り出す「カタチ」を人に伝えられるようになる。 物を分類・解剖する必要性に気づき、その体験から人に伝えられるようになる。 生物をどのように利用してきたかを知り、今後の利用視点に興味を持てるようになる。 2. 生 3. 人が水生							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	海産魚類の基本知識と魚類検索スケッチ(初級)⇒ 1種の魚のカタチを深く見る
2回目	エビ・カニ類 その1 ⇒ 節足動物の基本知識と外形上の観察・スケッチ。
3回目	エビ・カニ類 その2 ⇒ 解剖をし内構造を観察する
4回目	ローブ付着生物分類 ⇒ カキ・ホヤなど基盤生物上で生活する無脊椎動物観察
5回目	ウニ・ヒトデ類 ⇒ 棘皮動物の基本知識と生体観察
6回目	博多湾の釣り ⇒ 魚類採集の一方法として体験
7回目	評価試験および振り返り ⇒ 必要があれば補填講義
8回目	イカ・タコ類 その1 ⇒ 頭足類の基本知識とイカの解剖
9回目	イカ・タコ類 その2 ⇒ タコの解剖と頭足類のまとめ
10回目	クラゲ類 ⇒ 刺胞・有櫛動物の基礎知識と生体観察
11回目	貝殻から見た貝類 ⇒ ビーチコーミング採集物
12回目	貝類生体 ⇒ 軟体動物の基礎知識と巻貝からの歯舌検出
13回目	干潟・ビーチ生物分類 ⇒ 魚類稚仔魚を含む総合分類
14回目	評価試験および振り返り ⇒ 追加講義
15回目	年間の振り返り⇒ 水産生物の利用と現状(追加講義)
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	中間試験 25% 期末試験 25% 授業ノート評価 50%
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書: 特にナン 教材: 講師採集生物 参考書: 本校図書館の図書・雑誌	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	野生動物調査 (Wild Animal Research)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	津田 堅之介
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 飼育やネイチャーガイドを行う上で基本となる野生動物や野鳥の生態とフィールドサイン調査を、座学と野外で実際に観察学習する。野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務がある このゼミではこれらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出てフィールドでの経験を積んでいく 天候不順で野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行う ※担当教員実務経験：1985年よりフリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメント、鳥類や哺乳類そして両棲爬虫類の調査業務に携わる 津田堅之介生物生態写真研究所を設立し、国内外の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている大分県ニホンカモシカ調査員 世界文化遺産五島列島野崎島非常勤学芸員							
【到達目標】 ・全項目の基礎知識を理解したうえで、鳥類、哺乳類、爬虫類、両棲類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになる ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになる また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになる ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになる ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解する							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ガイダンスとして授業計画や実習の注意点について説明します さらに、野生動物に携わる業界や仕事について話します また、ニホンザル性齢識別実習や鳥類調査実習についての事前学習も行います
2回目	野鳥観察の基本について、野外(福岡南公園)での旅鳥の観察を通して学びます
3回目	野鳥観察の基本について、野外(福岡南公園)での実践を通して学びます
4回目	魚類・昆虫・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類の生態調査とデータの取り方の基本を解説します また必ず必要となる種の同定や、猛禽類の個体識別のための写真を撮影するための機材と記録方法も解説します
5回目	近年野生動物調査で一般的になっているセンサーカメラの選定と設定設置方法を解説し、学校屋上のピットに設置します 津田が以前撮影した画像を解析することで、実習で得た知識を画像解析で活用する練習をします
6回目	海の中道海浜公園及びビクニカ共和国をフィールドに、昆虫・両棲類・爬虫類・野鳥・哺乳類の目視及び鳴き声そしてフィールドサインによる識別方法について野外での実践を通して学びます また昆虫トラップやセンサーカメラを実際に設置します
7回目	同時にラインセンサス・定点センサス・任意踏査など、実務的な鳥類調査法について、実務的な昆虫採集法、ベイトトラップにライトトラップの設置などについて野外での実践を通して学びます 野外での実践を通して学びます。
8回目	海の中道海浜公園及びビクニカ共和国をフィールドに、昆虫・両棲類・爬虫類・野鳥・哺乳類の目視及び鳴き声そしてフィールドサインによる識別方法について野外での実践を通して学びます また昆虫トラップやセンサーカメラを実際に設置します
9回目	同時にラインセンサス・定点センサス・任意踏査など、実務的な鳥類調査法について、実務的な昆虫採集法、ベイトトラップにライトトラップの設置などについて野外での実践を通して学びます 野外での実践を通して学びます
10回目	海の中道海浜公園及びビクニカ共和国をフィールドに、昆虫・両棲類・爬虫類・野鳥・哺乳類の目視及び鳴き声そしてフィールドサインによる識別方法について野外での実践を通して学びます また昆虫トラップやセンサーカメラを実際に設置します
11回目	同時にラインセンサス・定点センサス・任意踏査など、実務的な鳥類調査法について、実務的な昆虫採集法、ベイトトラップにライトトラップの設置などについて野外での実践を通して学びます。 野外での実践を通して学びます
12回目	昆虫トラップと自動撮影装置を回収し、採集した昆虫の標本整理(タウ、三角紙、液浸標本)と記録された動画の整理解析を行います
13回目	春期・夏期の調査実習等について振り返り復習します 秋に控えた猛禽類調査の基本、猛禽類の種類・性別・年齢の識別方法などについて野外での実践を通して学びます。
14回目	前期末テスト
15回目	西区油山片江展望台でハチクマを中心にした鷹の渡りの観察とカウント調査を行います
準備学習 時間外学習	授業のメモを取り、復習をすること。
評価方法	『講義や実習の出席率』と『筆記試験の点数』の平均から成績評価点を算出します
【使用教科書・教材・参考書】 ・津田作成の資料 ・スマートフォン用Web図鑑、GPSアプリケーション、国土交通省水辺の国勢調査マニュアルと調査票、津田撮影の写真・動画・毛や骨格標本、講義資料用に記録している動画DVD	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	野生動物調査 (Wild Animal Research)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	津田 堅之介
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 飼育やネイチャーガイドを行う上で基本となる野生動物や野鳥の生態とフィールドサイン調査を、座学と野外で実際に観察学習する。野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務がある このゼミではこれらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出てフィールドでの経験を積んでいく 天候不順で野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行う ※担当教員実務経験: 1985年よりフリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメント、鳥類や哺乳類そして両棲爬虫類の調査業務に携わる 津田堅之介生物生態写真研究所を設立し、国内外の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている大分県ニホンカモシカ調査員 世界文化遺産五島列島野崎島非常勤学芸員							
【到達目標】 ・全項目の基礎知識を理解したうえで、鳥類、哺乳類、爬虫類、両棲類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになる ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになる また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになる ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになる ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解する							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	西区油山片江展望台でハチクマを中心にした鷹の渡りの観察とカウント調査を行います
2回目	鷹の渡り調査の記録データと写真の整理と解析を行います
3回目	シカ・イノシシ痕跡調査実習の説明と、ニホンジカの性年齢を識別する事前学習を行い、ニホンジカの調査に必要な知識を学びます 危険生物や野外調査の注意点など、野外活動における安全管理について学習します。
4回目	五島列島野崎島センサスに参加し、調査ルートコンパスやGPSアプリケーションを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。同時に野外調査の安全管理についても詳しく学びます。
5回目	五島列島野崎島センサスに参加し、調査ルートコンパスやGPSアプリケーションを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います 同時に野外調査の安全管理についても詳しく学びます。
6回目	五島列島野崎島センサスに参加し、調査ルートコンパスやGPSアプリケーションを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います 同時に野外調査の安全管理についても詳しく学びます。
7回目	ニホンザルの保護管理に関わる群れの個体数カウント調査で必要とされる性齢等の識別について野外での実践を通して学びます
8回目	高崎山サルカウント調査に参加 もしくは参加した津田の解説を聞く
9回目	冬鳥(小鳥と水鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査についてラインセンサス・定点センサスなど鳥類調査の実習野外での実践を通して学びます
10回目	冬鳥(小鳥と水鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査についてラインセンサス・定点センサスなど鳥類調査の実習野外での実践を通して学びます
11回目	冬鳥(小鳥と水鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査についてラインセンサス・定点センサスなど鳥類調査の実習野外での実践を通して学びます
12回目	朝倉でクマタカ及び猛禽類の観察と生態調査を行い、夜は近くの森でムササビの行動を観察
13回目	朝倉でクマタカ及び猛禽類の観察と生態調査を行い、夜は近くの森でムササビの行動を観察
14回目	後期末テスト
15回目	後期末テスト返却と解説
準備学習 時間外学習	授業のメモを取り、復習をすること。
評価方法	『講義や実習の出席率』と『筆記試験の点数』の平均から成績評価点を算出します
【使用教科書・教材・参考書】 ・津田作成の資料 ・スマートフォン用Web図鑑、GPSアプリケーション、国土交通省水辺の国勢調査マニュアルと調査票、津田撮影の写真・動画・毛や骨格標本、講義資料用に記録している動画DVD	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋調査	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大迫 綾美
	(Marine Research)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 海洋調査における調査技法の実践を通して学ぶと共に、実際にデータを取りテーマに沿った調査を行います。 ※担当教員実務経験:高知県にある砂浜美術館にて、ホエールウォッチングのガイドやクジラの生態調査に携わる。							
【到達目標】 ①海洋調査の方法を知る。 ②調査結果を用いてデータ分析ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション(施設事前学習)
2回目	オリエンテーション(施設事前学習)
3回目	実地調査
4回目	実地調査
5回目	実地調査
6回目	実地調査
7回目	実地調査
8回目	実地調査
9回目	実地調査
10回目	実地調査
11回目	実地調査
12回目	実地調査
13回目	調査振り返り、事後学習
14回目	調査振り返り、事後学習
15回目	前期期末試験
準備学習 時間外学習	・実習施設事前研究 ・調査結果集計、まとめ
評価方法	評価1(総合):プロジェクトの達成度を総合的に判断して評価。(20%) 評価2(専門力):授業で学んだ専門知識や技術を活かして取り組むことが出来たか評価。(40%) 評価3(人間力):チームで協力して目標を達成するために、自己の役割を果たすことが出来たのか評価。(40%)
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋調査	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大迫 綾美
	(Marine Research)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 海洋調査における調査技法の実践を通して学ぶと共に、実際にデータを取りテーマに沿った調査を行います。 ※担当教員実務経験:高知県にある砂浜美術館にて、ホエールウォッチングのガイドやクジラの生態調査に携わる。							
【到達目標】 ①海洋調査の方法を知る。 ②調査結果を用いてデータ分析ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション(施設事前学習)
2回目	オリエンテーション(施設事前学習)
3回目	実地調査
4回目	実地調査
5回目	実地調査
6回目	実地調査
7回目	実地調査
8回目	実地調査
9回目	実地調査
10回目	実地調査
11回目	実地調査
12回目	実地調査
13回目	調査振り返り、事後学習
14回目	調査振り返り、事後学習
15回目	後期期末試験
準備学習 時間外学習	・実習施設事前研究 ・調査結果集計、まとめ
評価方法	評価1(総合):プロジェクトの達成度を総合的に判断して評価。(20%) 評価2(専門力):授業で学んだ専門知識や技術を活かして取り組むことが出来たか評価。(40%) 評価3(人間力):チームで協力して目標を達成するために、自己の役割を果たすことが出来たのか評価。(40%)
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	ビオトープ	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	(株)マイファーム
	(Biotop Study)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
	専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法		対面授業	(2)	曜日・時限
【授業の学習内容】							
屋上ビオトープの管理とビオトープ管理士試験についての内容を学ぶ。ビオトープ管理士の内容から環境関連法について幅広く環境に対する知識を習得する。また、実習では校舎のある福岡市博多区の環境を調べ、生き物が飛来することのできる環境づくりを目指す。							
※担当教員実務経験：(工藤雄太)屋久島でのエコツアー、環境教育事業に携わる。「北九州・魚部」を法人化し、水生生物の生息調査、環境教育活動、事業立案およびマネージメント、出版、コンセプトカフェ経営や、稲作と生物多様性保全を両立するプロジェクトなど多岐にわたる業務に従事。(八兒美恵子)福岡県飯塚市にて有機農産物を生産。アイガモ農法などの経験有。生き物を大切にする農業を心がけ、農薬や化学肥料を一切使わない農業を行う。株式会社マイファームの技術講師として、糟屋郡新宮町で有機JAS認証イチジクや多品目野菜の圃場の管理も行う。福岡県ビオトープ管理士会所属。							
【到達目標】							
ビオトープ管理士試験に必要な知識を身に付けるとともに、ビオトープ管理士に必要な自然環境への考え方をもち自然と人間の共生について考え、自らの意見を述べる事が出来るようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション・生態学①、ビオトープ論①
2回目	生態学②、ビオトープ論②
3回目	生態学③、ビオトープ論③
4回目	生態学まとめ、環境関連法①
5回目	施工部門①、環境関連法②
6回目	【6月19日】粕屋町にて田植え
7回目	中間テスト・振り返り
8回目	【6月22日】舞鶴公園：みどりのまちマルシェ参加
9回目	施工部門②、環境関連法③
10回目	施工部門③、環境関連法まとめ
11回目	環境調査について、計画部門①
12回目	田んぼでの生態調査について、計画部門②
13回目	指標生物について、環境関連法・計画部門まとめ
14回目	テスト
15回目	テスト返却
準備学習 時間外学習	ビオトープ試験の過去問題演習を行う。またはそれに準ずる試験などの課題に取り組む。
評価方法	筆記試験60% 授業態度40%
【使用教科書・教材・参考書】	
「ビオトープ管理士資格試験 公式テキスト」公益財団法人日本生態系協会監修。授業スライドも印刷して配布	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	ビオトープ	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	(株)マイファーム
	(Biotop Study)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30	開講区分	後期
	専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法		対面授業	曜日・時限	水曜日 1・3時限
【授業の学習内容】							
屋上ビオトープの管理とビオトープ管理士試験についての内容を学ぶ。ビオトープ管理士の内容から環境関連法について幅広く環境に対する知識を習得する。また、実習では校舎のある福岡市博多区の環境を調べ、生き物が飛来することのできる環境づくりを目指す。							
※担当教員実務経験：(工藤雄太)屋久島でのエコツアー、環境教育事業に携わる。「北九州・魚部」を法人化し、水生生物の生息調査、環境教育活動、事業立案およびマネージメント、出版、コンセプトカフェ経営や、稲作と生物多様性保全を両立するプロジェクトなど多岐にわたる業務に従事。(八兒美恵子)福岡県飯塚市にて有機農産物を生産。アイガモ農法などの経験有。生き物を大切にする農業を心がけ、農薬や化学肥料を一切使わない農業を行う。株式会社マイファームの技術講師として、糟屋郡新宮町で有機JAS認証イチジクや多品目野菜の圃場の管理も行う。福岡県ビオトープ管理士会所属。							
【到達目標】							
ビオトープ管理士試験に必要な知識を身に付けるとともに、ビオトープ管理士に必要な自然環境への考え方をもち自然と人間の共生について考え、自らの意見を述べる事が出来るようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション・生態学①、ビオトープ論①
2回目	生態学②、ビオトープ論②
3回目	生態学③、ビオトープ論③
4回目	生態学まとめ、環境関連法①
5回目	施工部門①、環境関連法②
6回目	【6月19日】粕屋町にて田植え
7回目	中間テスト・振り返り
8回目	【6月22日】舞鶴公園：みどりのまちマルシェ参加
9回目	施工部門②、環境関連法③
10回目	施工部門③、環境関連法まとめ
11回目	環境調査について、計画部門①
12回目	田んぼでの生態調査について、計画部門②
13回目	指標生物について、環境関連法・計画部門まとめ
14回目	テスト
15回目	テスト返却
準備学習 時間外学習	ビオトープ試験の過去問題演習を行う。またはそれに準ずる試験などの課題に取り組む。
評価方法	筆記試験60% 授業態度40%
【使用教科書・教材・参考書】	
「ビオトープ管理士資格試験 公式テキスト」公益財団法人日本生態系協会監修。授業スライドも印刷して配布	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	フィールドテクニク	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大橋 光雄
	(Outdoor Technique)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	火曜日 3時限
【授業の学習内容】							
自然体験活動の意義や野外での安全などの知識を学ぶ、また様々なアクティビティを体験しながらプログラムの展開を知る。 四季折々の体験活動を体得しながらアクティビティ(activity)シートに記録しながら学びへとつなげていく ※担当教員実務経歴: 米国冒险学校NOLS: 1979年～WRW*パイロットコース終了 キャンプディレクター1級(D1ー00547)海の中道海浜公園「森のファミリー探検隊」隊長 役職: 福岡県キャンプ協会名誉会長。NPO元気プログラム作成委員会理事 元(公益社)日本キャンプ協会理事。専門委員							
【到達目標】							
薪や炭の火起こし、ロープワーク、テンティング等の野外活動に関する基本的な技術を習得している。 プログラム実施時のリスクマネジメントについての意識が醸成されており、行動に移すことができる。公益社団法人日本キャンプ協会公認キャンプ指導者資格取得&PWなどの自然体験活動系の指導者の資格を目指す。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	人間関係構築プログラムの体験と理解1
2回目	人間関係構築プログラムの体験と理解2
3回目	薪を使った火起こし技術の習得
4回目	炭を使った火起こし技術の習得
5回目	野草を活用したプログラムの体験と習得
6回目	ロープワーク技術の習得①
7回目	テンティング技術の習得
8回目	ナイフ・ナタ・ノコギリ等の刃物の取り扱いと習得①
9回目	自然を活用したプログラムの体験と習得①②
10回目	自然を活用したプログラムの体験と習得②③
11回目	サバイバル(防災プログラム)の体験と技術の習得1
12回目	サバイバル(防災プログラム)の体験と技術の習得2
13回目	ダッチオープン等を使った魅力的な野外料理の体験と習得1
14回目	ダッチオープン等を使った魅力的な野外料理の体験と習得2
15回目	前期学習内容の総括を行う
準備学習 時間外学習	自然体験活動やアウトドアでのニュースや現象をとらえて雑誌やネットをで興味あるものを調べておく、意味あるものにするために知らないことや新しい単語等は調べ使えるようになること
評価方法	筆記試験50% (ミニテストも含む) 実技試験50% (授業内での実技のテストも含む)
【使用教科書・教材・参考書】	
参考文献:生き物としての力を取り戻す50の自然体験 ―身近な野あそびから森で生きる方法まで (Make: Japan Books) 単行本 筆者(大橋)の文章や資料は適宜配布する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	フィールドテクニク	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大橋 光雄
	(Outdoor Technique)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	火曜日 3時限
【授業の学習内容】 自然体験活動の意義や野外での安全などの知識を学ぶ、また様々なアクティビティを体験しながらプログラムの展開を知る。 四季折々の体験活動を体得しながらアクティビティ(activity)シートに記録しながら学びへとつなげていく ※担当教員実務経験:米国冒險学校NOLS:1979年～WRW*パイロットコース終了 キャンプディレクター1級(D1-00547)海の中道海浜公園「森のファミリー探検隊」隊長 役職:福岡県キャンプ協会名誉会長。NPO元気プログラム作成委員会理事 元(公益社)日本キャンプ協会理事。専門委員							
【到達目標】 薪や炭の火起こし、ロープワーク、テンティング等の野外活動に関する基本的な技術を習得している。 プログラム実施時のリスクマネジメントについての意識が醸成されており、行動に移すことができる。公益社団法人日本キャンプ協会公認キャンプ指導者資格取得&PWなどの自然体験活動系の指導者の資格を目指す。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	原体験プログラムの体験と火の体験と習得
2回目	原体験プログラムの体験とアウトドアプログラムの体験
3回目	ロープを活用した道具の製作体験1
4回目	ロープを活用した道具の製作体験2
5回目	ロープを活用した道具の製作体験3
6回目	身近な自然からの恵みを利用した自然体験プログラム体験と理解1口
7回目	身近な自然からの恵みを利用した自然体験プログラム体験と理解2
8回目	ダッチオープン等を用いた野外料理の体験と習得1
9回目	ダッチオープン等を用いた野外料理の体験と習得2口
10回目	自然散策の方法と体験
11回目	アウトドアプログラムの理解(冬場編)
12回目	アウトドアプログラムの理解(野外料理燗製編)
13回目	アウトドアプログラムの理解(企画立案1)
14回目	アウトドアプログラムの理解(企画立案2)
15回目	後期学習内容の総括を行う
準備学習 時間外学習	自然体験活動やアウトドアでのニュースや現象をとらえて雑誌やネットをで興味あるものを調べておく、意味あるものにするために知らないことや新しい単語等は調べ使えるようになること
評価方法	筆記試験50% (ミニテストも含む) 実技試験50% (授業内での実技のテストも含む)
【使用教科書・教材・参考書】 参考文献:生き物としての力を取り戻す50の自然体験 ―身近な野あそびから森で生きる方法まで (Make: Japan Books) 単行本 筆者(大橋)の文章や資料は適宜配布する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ライフセービング	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高濱 淳
	(Life Saving)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
	専攻名 ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 2時限
【授業の学習内容】 ロープワーク、空中ドローン＆水中ドローン操縦実習、公園の生物調査を行い調査資料作成方法を学ぶ。心停止等生命にかかわる緊急時のケアを大人と子供の人形、AED、酸素呼吸システムを使ってスキルを身に付けたり、即座に生命に関わらない怪我や病気の人に包帯の巻き方や脈の測り方等を実習する。 ※担当教員実務経験:PADIスクーバインストラクター歴25年 PADIコースディレクター歴17年 潜水作業歴25年 フィリピン ボラカイ島のダイビングリゾート勤務歴7年 福岡ECOでのオープンウォータ担当歴22年 潜水土担当歴21年 ライフセービング担当歴13年 ダイビングゼミ担当歴22年、水中カメラゼミ担当歴10年 水中ドローン安全潜航操縦士インストラクター歴1年							
【到達目標】 空中ドローン＆水中ドローン操縦方法を学び調査、捜索に使用出来るようになる。公園の生物調査を行い、調査資料作成方法を学び企画資料作成出来るようになる。PADI EFR(エマージェンシーレスポnder)資格取得を目指し、陸や海での緊急事態に素早く対処出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション/アンケート/資格案内
2回目	ロープワーク
3回目	水中ドローン学科
4回目	水中ドローン学科
5回目	ドローン操作実習
6回目	漂流事故の予防と対処方法
7回目	公園の生物調査実習
8回目	公園の生物調査資料作成
9回目	公園の生物調査実習
10回目	公園の生物調査資料作成
11回目	公園の生物調査実習
12回目	公園の生物調査資料作成
13回目	パワーポイントを使用し、生物調査資料作成
14回目	パワーポイントを使用し、生物調査資料発表
15回目	色々な潜水作業、ダイビング番組のDVD鑑賞
準備学習 時間外学習	・ロープワーク、ドローン操作、生物調査、パワーポイント等、常時使える様に日頃の復習が重要。
評価方法	筆記試験 40% 実技評価 40% 出席評価 20%
【使用教科書・教材・参考書】 ロープ、DVD、水中ドローン、PC	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ライフセービング	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高濱 淳
	(Life Saving)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 2時限
【授業の学習内容】 心停止等生命にかかわる緊急時のケアを大人と子供の人形、AED、酸素呼吸システムを使ってスキルを身に付けたり、即座に生命に関わらない怪我や病気の人に包帯の巻き方や脈の測り方等を実習する。 ※担当教員実務経験:PADIスクーバインストラクター歴25年 PADIコースディレクター歴17年 潜水士歴25年 福岡ECOでのオープンウォーター担当歴22年、潜水士担当歴20年 ライフセービング担当歴13年 ダイビングゼミ担当歴22年 水中カメラゼミ担当歴10年 水中ドローン安全潜航操縦士インストラクター歴1年							
【到達目標】 PADI EFR(エマージェンシーレスポnder)資格取得を目指し、陸や海での緊急事態に素早く対処出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション/アンケート/ライフセービング資格説明
2回目	一次ケアー 知識の予習
3回目	一次ケアー 現場の評価・バリアの使い方
4回目	一次ケアー 回復体位
5回目	一次ケアー CPR
6回目	一次ケアー CPRとレスキュー呼吸
7回目	一次ケアー 中間評価
8回目	一次ケアー AEDの使用方法
9回目	一次ケアー ショックの管理、脊髄損傷の管理、気道閉塞の対応
10回目	一次ケアー 酸素呼吸装置の使用方法
11回目	二次ケアー 怪我や病気の評価
12回目	二次ケアー 包帯、副木、三角巾の使用方法
13回目	一次ケアー、二次ケアー 知識の復習
14回目	期末評価
15回目	社会人としてのライフセービング
準備学習 時間外学習	・緊急事態の時に、素早く対応出来る様に、PADI EFR テキストを使いスキルの復習が必要。
評価方法	筆記試験 40% 実技評価 40% 出席評価 20%
【使用教科書・教材・参考書】 PADI EFRテキスト、EFR DVD	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤岩 辰則
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】							
学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】							
学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	進級課題とは① ～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学 (Special Lecture)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。 学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。 ※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。 ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。 ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。 ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3,5時限
【授業の学習内容】 好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。 平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。 道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「現在形」疑問文 (yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3,5時限
【授業の学習内容】 週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。 過去についての場所や出来事、過去の人について述べるができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。 食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't](能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to](陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやらないといけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really] (強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海外実学研修 (Overseas Practical Training)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。 ※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。 ・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。 ・世界における日本の立場を理解する。 ・自身のキャリアをデザインする。							

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の海外実学研修ノート	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。 企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。 ※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・企画立案、運営ができるようになる。 ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。 ・接客を知り、実践できるようになる。 ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。 ・予算管理を実践し習得する。 ・スケジュールリングを理解し、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	赤岩 辰則
	(Seminar for a Qualification)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ECO自然環境クリエイター専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	